



操作部

No.2046 クラーク剛度試験機 (全自動デジタル式)

本機は紙・繊維・フィルムなどの製品、特に比較的坪量の小さい新聞紙、薄紙等のこわさを自重曲げ法によって測定する試験機です。試験片を一組のロールに挟み、左右両方向にゆっくり回転し、試験片を左右に倒した角度が90度となる時のロールからの張り出し長さを計測し、この数値から“クラークこわさ”を求めます。従来より、この試験は経験的な慣れと操作する時間を要し、個人差の発生や省力化の妨げとなっておりました。そこで、これらの問題を解決するため、一連の操作を自動化し、オペレータの作業軽減を目指して本機を開発しました。

型式	全自動、デジタル表示型
測定方法	JIS(クラーク法)に準拠し、A法、B法の両測定が可能 自動的に反復曲げを行って臨界長を追求
試料長	100～500mm 試料長をテンキーで入力 最大表示可能な臨界長 46cm
試料送りスイッチ	長いサンプルでも、試験片の張り出し長さを調節 することにより、短時間で測定することができる
試料巾	15～50mm(標準 30mm) 設定巾は 15,20,25,30,40,50 (mm) より切換スイッチ により選択
試料の方向 測定法の切換	試験片の方向をタテ、ヨコ、無方向から設定 A法及びB法の測定方法を切換スイッチでいずれ かを選ぶ
曲げ角度の追及	A法においては90°の曲げ角度の追及を、B法で は鈍角及び鋭角に曲げてその時の張り出し長さか ら計算により臨界長を求める
曲げ速度	試験片の回転速度 1rpm
データ表示 オプション	臨界長及び“こわさ”をデジタル表示 アクリル収納ケース
参考規格	JIS P-8143-1996, TAPPI T451cm-84
電源	100/110V 50/60Hz 1A
外形寸法	320×385×480mm
重量	18kg



No.2047 クラーク剛度試験機 (電動式標準型)

紙のこわさは“剛度”又は“こし”などといわれ、新聞紙、印刷用紙などは取扱上適切なこわさを持つことが必要とされています。本機は紙、繊維やフィルムなど、特に新聞紙、薄葉紙等の“こわさ”を材料自身の自重による曲げ荷重から測定します。この試験法は、試験片を一对のロールに挟み、紙片を左右に回転して、倒れる角度が90度になったときの張り出し長さ(臨界長)を求め、こわさを算出します。

試料	巾 15～50mm(標準 30mm)
曲げ速度	試験片の回転速度 1rpm
附属スケール	30～300mm
参考規格	JIS P-8143-1996 TAPPI T451cm-84
電源	100/110V 50/60Hz 0.5A
外形寸法	225×320×260mm
重量	8kg